

■ ASNC

ASNC 2015 学会報告記

Reports from ASNC 2015 in Washington, DC

吉永恵一郎

Keiichiro Yoshinaga, MD, PhD, FACC

国立研究開発法人放射線医学総合研究所 分子イメージング研究センター
Molecular Imaging Research Center National Institute of Radiological Sciences

2015年9月17日から9月20日にかけて米国の首都ワシントンDCで第20回の米国心臓核医学会が開催された。会期は4日間で初日は午後から主として企業共催の実地医家向けの教育セミナーおよびオープニングレセプション、2日目は心臓PETを中心としたシンポジウム、ポスターセッション、そして後半2日間はSPECTを中心としたセッションの構成になっており、それぞれの専門分野に応じて学会に参加しやすいように配慮した学会日程になっている。シンポジウムおよび教育セッションが中心の構成でセッションは4日間で合計50あり、合計175の発表があった。また一般演題発表はポスターが中心で合計83の一般演題の発表があった。一般演題については採択率72.2%であり、初期のころの応募すればすべて採択という状況ではなくなっているようである。4日間の合計参加者は978名でほとんどが米国国内からである。

ASNCの学会としての特徴は日本の心臓核医学会とも同様で小さなコミュニティで和気あいあいとした雰囲気である。PETのディベートセッションでは劣勢の側にも会場から暖かいサポートがあり、かつ先端のPET/MRの魅力や問題点、また新たなPET心筋血流製剤の今後の方向などがつかめる素晴らしいセッションもあった。

ASNCの会員数は現在4,000名であるが、米国内での会員数増加が頭打ちになっている現状から海外からの会員増加および学会参加者の増加を目指していることであった。その一環として国際セッションが2日目の午後に半日入っており欧州、中近東、南米、およびアジアに分けたセッションがあった。欧州を除けば撮像機器やPETなどの普及が途上

の段階で発表内容としてはこれからという印象であったが、ASNCの理事長などトップレベルが参席し、ASNCとして国際化への取り組みの姿勢が伝わってきた。

私はアジアセッションで日本が世界をリードしている心サルコイドーシスにつき最近の研究成果につき報告した。さらにASNC事務局の国際担当と今後の日本心臓核医学会との連携につき打ち合わせを行った。これらの検討結果は日本心臓核医学会向け特別会員資格の設定および来年三重県津市で開催される学術集会の企画に反映されるはずである。国際セッション後にはレセプションが企画されASNCの事務局、理事と各国からの参加者が交流を深めるよい機会であった。今回は日本心臓病学会と日程が重複し、日本からの参加者はASNCの集計では私1名のみとのことであったが、教育セッションの内容も充実しており、今後日本からの参加者が増えることが期待される。



会議後、会場の一角にてASNCの国際担当、事務担当のメンバーと